

希少植物、昆虫、鳥たちが息づく“生きた学びの森”を未来へ

自然共生キャンパス環境整備プロジェクト

福島大学金谷川キャンパスは、2025年12月、環境省が認定する「自然共生サイト」に認定されました。福島市では初、福島県内でも6件目となる認定であり、本学が長年にわたり取り組んできた自然環境の保全活動と、その価値が高く評価されたものです。

金谷川キャンパスは、1979年の移転以前から地域の里山として親しまれてきた場所です。現在も雑木林や草地、水辺など多様な環境が残され、植物約450種、チョウ類・トンボ類約90種、鳥類約100種が確認されるなど、豊かな生物多様性を育んでいます。さらに、環境省レッドリスト掲載種であるオオムラサキやキンランをはじめとする希少な動植物も生息・生育しており、地域に残された貴重な自然環境となっています。

この豊かな自然は、教育・研究のフィールドとして活用されるだけでなく、学生や教職員が自然と向き合い、生物多様性や環境保全を実践的に学ぶ「生きた学びの場」として重要な役割を担っています。

これまで本学では、学生・教職員が協働しながら、下草刈りや外来種の駆除、生態系モニタリング調査、自然環境を活用した教育・研究などの活動を継続してきました。こうした積み重ねが評価され、「自然共生サイト」への認定につながるとともに、国際的な生物多様性保全の枠組みであるOECMにも位置付けられています。

一方で、この豊かな自然環境は、そのまま維持されるものではありません。里山環境を保全し、生物多様性を守り続けるためには、継続的な管理や調査、教育・研究活動を支える環境整備が欠かせません。

福島大学では、この貴重な自然環境を未来へ受け継ぎ、教育・研究・地域との連携に生かしながら、人と自然が共生する持続可能なキャンパスづくりを進めていきます。

本プロジェクトで取り組むこと

- 里山環境の保全・維持管理
- 希少動植物の生息・生育環境の保全
- 生態系調査・モニタリングの充実
- 自然を活用した教育・研究活動の推進
- 学生・地域と連携した環境保全活動の展開



金谷川キャンパスの豊かな自然は、福島大学だけでなく地域社会にとってもかけがえのない財産です。この環境を未来へ継承し、次世代の学びと生物多様性保全につなげることを目指しています。